

認知症高齢者の傾聴ボランティア講座 （ブラッシュアップ）

傾聴ボランティア「ふれあい三輝会」

〒216-0023 神奈川県川崎市宮前区けやき平10-1-301

助成事業の概要

傾聴ボランティア活動は、聴くことでできる社会貢献といわれているが、活動を行うボランティア自身の成長や自己実現に資する側面も持っていると考えられ、常に研修を行い、スキルアップを図ることが必要と考えられる。

そこで、全国で傾聴ボランティア養成講座を展開しており、川崎市民アカデミー主催のボランティア養成講座も担当している、特定非営利活動法人「ホールファミリーケア協会」理事長の鈴木絹英氏を招聘し、以下のとおりブラッシュアップ講座を実施した。

1日目（6月18日、4時間）

認知症高齢者の具体的な傾聴の仕方・関わり方

2日目（6月24日、4時間）

個人宅訪問傾聴の基本

なお、傾聴ボランティア「ネットワーク川崎」に加盟する他の15グループや協力団体にも、講座への参加を呼びかけ、両日とも約60名が参加した。

事業の成果

受講者のアンケート結果から、次の点で成果があったと考えられる。

1. 傾聴ボランティア活動の基礎についての再認識。
2. 認知症高齢者の具体的な思考・行動パターンおよび傾聴ボランティアとしての関わり方の基

本。

3. ロールプレイ実習による疑似体験を通して、実践活動への活用。

4. 個人宅訪問時お約束事20か条の習得により、個人宅での傾聴活動実践への期待。

5. 傾聴活動上の疑問・困り事への対応方法について理解を深めた。

6月1日付け新聞各紙で、「認知症高齢者数が、昨年の国の推計より160万人多く462万人に上り、予備軍も400万人」との報道（厚労省研究班）があり、これからの傾聴活動において、認知症高齢者に対する具体的な傾聴の仕方・関わり方は、避けて通ることができない重要なポイントであり、今回の講習で得られた個人個人のスキルは、今後の傾聴活動に大きく資すると考えられる。

また、個人宅訪問については、様々なトラブルの発生が予測されることから、敬遠する傾向が見られるが、一方、川崎市社会福祉協議会を通じての傾聴依頼は、個人宅からの依頼が増加しており、積極的な対応が求められているが、今後、受講者から進んで傾聴活動を実践する人の増加が期待できる。

10年近い経験を持つベテランから、活動1年未満の新人まで、幅広いボランティアが受講したが、ベテランからは「初心に帰って、新たな気持ちで活動を継続していきたい」との決意表明がなされ、新人からは「今回学んだことを実践に活かしていきたい」との感想が寄せられている。

■ 成果の広報、公表

1. 傾聴ボランティアネットワーク川崎の役員会において、実施結果・成果および今後の活動への期待について報告した。
2. 川崎市社会福祉協議会に、実施結果および成果について報告した。

■ 今後の展開

傾聴ボランティア川崎ネットワークには、現在16グループ約250名が所属して、川崎市内の老人福祉施設及び個人宅を定期的に訪問し、傾聴活動を展開している。

ふれあい三輝会を含め、市内での傾聴要請は増加傾向にあり、さらにボランティア活動に携わる人員の増加を図るとともに、定期的にブラッシュアップ講座を開催し、メンバーのスキルアップを図っていきたいと考えている。